



**栄光園だより**  
第93号

2013年10月10日発行  
発行  
社会福祉法人 栄光園  
別府市南荘園町3組  
〒874-0904 電話(23) 2827  
振込口座 01930-2-20748

編集 広報誌編集委員会  
印刷 大野印刷株式会社  
別府市青山1-7 電話(21) 0505

# 60年前のルーツを尋ねて

児童養護施設  
施設長 江口 敏一

アメリカ人ジャック・デッドワイラーさんが市役所の職員さんと9月7日、突然来訪されました。

ジャックさんは、1951年日本女性と黒人男性の間に生まれた混血児で、誕生7か月で栄光園へ預けられたのです。日本名は岡村一夫、愛称リッキーと言われました。創設期の栄光園で生活をはじめ、7歳のとき養子縁組で渡米しました。

終戦後間もない時期であり、渡米のための戸籍やパスポート・ビザの作成など手続き上の多くの困難がありました。小郷小福園長の手際よい処理と米軍の協力で短期間で渡米準備が整ったようです。振り返ってみると栄光園での生活は大変愛された思い出深いものであったとのこと。特に、自分のために熱く祈られていたとの実感を持っていました。米国での生活は、養父母の献身的な養育で素直に成長し、ごく普通の米国人として社会で活躍したのち、養父母の看取りを行って養育してくださったことへの恩返しを済ませました。自分一人になり、養父母への気兼ねがなくなることからずと気になって自分のルーツを確かめたくて、建設会社キヤタピラで経理関係の仕

事をする傍ら、別府市役所の国際交流課とのコンタクトを続けていきました。この数年、国際交流経路由で栄光園には年末にカレンダーなどのプレゼントもされていきました。

現在62歳で、元気なうちに、別府に行つて自分の目で出自を確かめたいという思いがふくらみ来日を決意したのです。

子どもに出自を伝えることを「真実告知」といいます。アイデンティティーを確認することは自己の確立に欠かせません。しかし、その時期は微妙で、幼すぎると理解できず、思春期に出自を知らされた場合、自分の想う自己理解とかけ離れていけば情緒的な不安定を生じます。本人が疑問を抱きつつもそれを自然に受け入れることのできる状況は大変限られていますし、そのフォ

ローは園を巣立ったのちまで続くのです。その目的とするところは、自己肯定感の形成であり、自分がこの世に生まれてきたことを喜べるような状況となることです。どんなに虐待してきた親、養育放棄した親に対してさえ産んでくれてありがとうと言うことのできるような心のサポートは告知者と子どもとの寄り添った成長のみが生み出すことのできる成果ともいえません。

ジャックさんの場合、今となつては栄光園へ入所の際はきつとも明確ではありません。当時、混血児の社会への巣立ちを想定すると里親制度の整っている米国のほうに夢があったと想像するほかはないのです。自分のルーツに関しては身近に調べる術がないと余計に関心が深くなるのですが、大変シャイな彼は里親への気兼ねから心に秘めていたと思われま



里親に引き取られてから55年ぶりに別府の地を踏みしめた彼の感激はいかばかりかと思えます。きつと何らかの手がかかりがつかめると思っていたに違いありません。複数の新聞報道にもかかわらず、全く手がかりはなかったのです。産んでくれてありがとうと言えらる方に出会うことなく、消息さえ全く耳にすることなく、帰米せざるを得ませんでした。しかし、



彼は、栄光園で自分の存在と成長を神に祈られていた幼少期を覚えていました。小規模化した家庭に近い環境の今のホームで子どもたちと揃つて食事する際、55年前の自分の栄光園時代と想いを重ね、生きていてよかつたとしみじみ思つたそうです。

栄光園を尋ねた証に何か記念のプレゼントをしたとのことの彼の申し出に、栄光園周囲の見事な桜の一角に、あと1本の植樹を欲している臥龍点睛を欠く場所があり、そこへの植樹を所望しました。彼は気持ち良く応じて、彼の植樹に賛同された市民の方々のご協力も仰ぎ、ソメイヨシノの苗木をウエストホームの南端に「ジャックと桜の木」と記名したポールと共に植樹しました。今の桜と同じ大きさになるには40年を要します。彼も含め、今立ち会つた皆は空からこの桜の花を愛でていることでしょう。

今回のジャックさんの訪問を受け、栄光園61年の歴史は、巣立つた方々の高年齢も見据えたアフターケア施設の検討を始め、必要性を感じたひと時でもありました。



# 児童養護施設

## ウエストホームの 食育について

保育士 原田 康子

ウエストホームは、現在高校3年男子4名、2年男子1名、1年男子1名、中学3年男子1名の構成で7名のホームです。社会に出る時期を間近に控えた高校生とのホームなので自分で調理が出来ることや、健康を維持していくための食の知識を持たせることを目標に挙げ食育を進めています。



今年度は、『健康を維持していくための食材の知識を習得し、調理することに関心を持ち、自立した食生活が営めるようになる。』という食育目標を掲げ、取り組んでいます。まず、食事が作りが出来るようになってほしいと考え、買物や調理を体験させていくことにしました。いろいろな食材に興味を持たせ、

その食材の価格や選び方を教え、その食材を調理出来るよう、器具の使い方や調理方法を親子生活訓練棟で調理実習の体験をさせていくことにしました。

そこで、この夏休みを利用し、それぞれの子どもが買物に行き、食事を作る経験をしました。食事作りの一連の流れを知ったようです。食事作りの大変さを実際に経験し、食事を作ってもらったことへの感謝の気持ちも芽生えて来たのではないかと思います。

今後は、予算内で食事を作ることや食材を無駄無く使う工夫、体調の悪い時の食事メニューなど実生活して行く上で必要な知識を知らせて行こうと考えています。

これから独り立ちして行く子どもたちが、自分自身で自分の健康を維持していきけるようになってほしいと願っています。

### 栄養士補定

栄養士 佐藤 朱美

今回、ホームの職員協力のもと、食事作りの一連の流れを体験できたことは、子どもたちにとって良い経験となり、同時に食事作りについて考えるきっかけになったのではないかと思います。子どもたちが社会に出ても困らないように、食に関する知識や食選択能力の習得を支援することはもちろん、今後子どもたち自身の学びたいという気持ちを大切にしていきたいと考えています。幸い施設が小規模ユニットとなり、各ホームで食事作りを行っていることから、調理も学びやすい環境となっています。少しでも自信を持って独り立ちできるように、職員一丸となり全力で支援していきます。

# 乳児院

## すいかわりと花火

保育士 日吉 智美

夏の思い出作りに、すいか割りとは花火をしました。

すいか割りは、まず保育者がやって見せました。子どもたちはじっとみていて、今からどうするんだろう？という顔をしていました。すいかに当たった瞬間、ビックリした子や、指をさして教えてくれる子など、様々なかわいらしい表情を見せてくれました。実際に自分たちでやるときは、すいかを割ろうと力いっぱいすいかをたたいていました。一人で出来ない子ども、保育者と一緒ですいかをたたいて体験しました。それから、みんなですいかを食べました。おかわりをしたり、種で遊んでみたりとすいかをいろんな形で楽しみました。

花火では、まず打ち上げ花火を見ました。大きな音がするので、ビックリして泣き出してしまったりもいましたが、いろんな色の花火を不思議そうな顔をして見ていました。みんな花火を見た後は、自分たちでも花火を楽しみました。保育者に手を添えてもらい、少し怖いのか、



体をのけぞるようにしていました。すいか割りとは花火という、夏の定番をみんなで楽しむことができました。もちろん、その後の遊びで、すいか割りを再現してくれる子どももいました。楽しい夏の思い出が出来ました。



## 海水浴、磯遊び

保育士 山口 三穂

毎日暑い日が続いている中、子どもたちが楽しみにしていた海水浴、磯遊び。今年度は、田ノ浦ビーチに行ってきました。

行きの車の中では、海が見えてくると「あー海だ」と言って海が見えてきたことを保育者に知らせたり、歌を歌ったりしていました。

田ノ浦ビーチに着くとまずは、海をバックに栄養士さんが作ってくれた朝ご飯のお弁当を食べました。「おいしいね」と言いながらウインナーやおにぎりを食べました。外で食べるご飯は格別！たくさんお代わりをしてもおいしかったです。さっそく水着に着替えて海へ！ダイナミックに海の中へ入って行く子もいれば、日頃のプールと違い、波があるのにびつくりして、なかなか砂浜から動けずにいる子もいました。「まずは足からね」と言って手を繋いで波打ち際に立ち、ゆっく

り入り、「冷たくて気持ちいいね」お魚



さんいるかな」とたくさんお話ししながら「バシャバシャ」と言ってお水をかけて行くこと「エイ！」と言って自分から水に手を伸ばし、保育者と水の掛け合いを楽しむ子や、バケツに水を汲んでひたすら自分にかけるのを楽しんでる子もいました。

海でもダイナミックに遊んでいる子どもは、浮き輪を回してもらい海の上でクルクルと回転するのを楽しんだり、浮き輪から手を離しバシャンと海の中へ入って行く姿も。保育者と一緒に海から顔を出すと「もう一回」と言って何度も海の中へもぐるのを楽しんでいました。

海でたくさん遊んだあとは、砂浜でお山を作り、綺麗な貝殻を見つけて貝殻拾いをしたり、海の中の魚を観察しました。保育者が魚を捕まえようとしていましたが、魚の方が早く捕まえられずにいると、子どもたちは「あーあー」と残念そうに言っていました。

「そろそろ帰ろうか？」と声をかけると「いやいやー」と言って中々海から離れようとしないうちもいました。

帰りの車の中では遊び疲れたようぐっすり眠る子もいました。起きている子どもと「楽しかったね」「また行こうね」と、楽しかった話をしながら帰りました。

海を見たり、泳いだりと、楽しく遊ぶことが出来、海水浴と磯遊びをとっても満喫できました。

## 青山保育所

今年の夏は、とても暑かったですね。子どもたちが熱中症にかかるのではないかと心配していましたが、毎日プール遊びや水遊びを楽しみ、元気に夏を乗り切りました。そんな元気いっぱいの子どもの様子をお知らせします。

### 夏祭り

7月に夏祭りを行いました。今年5歳児による神輿や別府大学の「音ドル娘」さんによる歌やお話をしました。天候にも恵まれて、卒園児や地域の方にもたくさん参加していただき、盛大に行うことが出来ました。来年もまた楽しい企画を考えたいと思います。



### 保護者 一日保育士体験

毎年恒例になりました「保護者の一日保育士体験」を行いました。今年はお父さん、お母さん先生が参加してくださいました。プールで遊んだり、一緒に給食を食べたり、絵本の読み聞かせをしていただき、子どもたちは大喜びでした。忙しい中参加して下さりありがとうございます。

### そうめん流し

今年もそうめん流しをしました。1回目はきりん組、ぞう組のみの参加でしたが、2回目はぱんだ組の子どもたちも参加しました。お兄ちゃん・お姉ちゃんの真似をして一生懸命にそうめんをすくっていました。普段とは違うスタイルなので、子どもたちもいつもよりたくさん食べていました。



### ぞう組 夏の終わりのお楽しみ会

今年初めての試みで、ぞう組の子どもたちで夜のお楽しみ会をしました。食育でクッキングをしているぞう組は、今回お家の人と一緒に夕飯を作って食べ、その後は夜の保育園探検や花火などを楽しみました。



### 老人ホームの敬老会に参加しました!

地域の老人ホームの敬老会に招待されて5歳児のお友達が出かけました。練習をばっちりしていたのですが、大勢のお客さんの前でさすがに緊張したようです。手遊びや歌を披露し拍手をたくさんもらっていました。

帰りはおじいちゃんやおばあちゃん一人一人に握手をして、お土産をいただいで帰りました。これを機会に交流が増えるといいなあと思います。



# 野口保育所

今年の夏は暑かったですね！ 猛暑と言われ続けた夏でしたが、子どもたちはプール遊びなどの夏ならではの遊びを満喫したり、9月からは少くしだけ涼しくなってきたので、お散歩や体を動かす遊びをしたりと毎日子どもたちは元気いっぱいです。行事の様子と共に子どもたちの元気な姿をお知らせします。

## 七夕会



毎年行われる「七夕会」、例年までは子どもたちのみの行事でしたが、今年は地域のおじいちゃんやおばあちゃんをお誘いして七夕会を行うことにしました。年長組を中心に一緒に七夕飾りを作ったり、七夕の由来のブラックパネルシアターを見たり、小さいクラスから順番に歌や手遊びのプレゼントもしました。昼食は全クラスで「ソーメン流し」をして、美味しく食べました。

地域のおじいちゃんやおばあちゃんも終始優しい笑顔で、子どもたちと接してくださり、

子どもたちもすくすくと、「おじいちゃん、こっちはきて！」「おばあちゃん、一緒にソーメン食べよう！」など子どもたちからも



積極的に関わる姿を見て、これからも地域の方が参加できる行事を行っていきたいと思いました。

## 夏祭り



7月27日(土)に「夏祭り」が行われました。夏祭りでは「なかよしのわっ！」をテーマに年長組さんがお神輿を「わっしょい！わっしょい！」と元気に担ぎ、園児みんなで手をつなぎ盆踊りを踊ったり、食品バザーや保育士達の手作りのゲームをしたりして遊びました。ゲームの

景品も毎年好評で全て手作りなので、保護者や地域の方にとっても喜ばれます。



毎年作るのは大変ですが、保育士たちも子どもたちやたくさんの方の笑顔を見ると、手作りの景品だけは譲れない!!と毎年頑張っています。

最後には保育士たちの催し物で「どうぞのいす」という劇をしました。子どもたちの好きな絵本の劇だったので、見ていたり目をキラキラさせながら見てくれました。今年も「楽しかった」と言ってもらえたので、子どもたちの心に残る夏祭りになったかな...と思います。

## うどんづくり

食育の一環として、3・4・5歳児が力を合わせてうどん作り挑戦しました。エプロンと三角巾をつけて、混ぜたり、

こねたりを順番にしていきました。5歳児さんがリーダーになり、「次は○○ちゃん、順番ね」としっかりグループをまとめてくれ、誰かがこねているとボールをみんなが持つてあげたり、「もっと力入れて！頑張って！」と声援を送ったりして、美味しいうどんが出来ました。

3時のおやつ時間には、小さいクラスにも「どうぞ」と配膳に行き、お兄ちゃんおねえちゃんぶりを発揮していました。自分たちの作ったうどんの味はやはり格別なようで、苦手な子どももおかわりをしていました。次は何を作ろうかな...? 作るって楽しいですね!



## きれいな朝顔咲いたよ!

先日、理事の池田先生が植えてくださった朝顔が子どもたちのようにスクスクと育ち、きれいな朝顔が咲きました。

毎日子どもたちが朝夕に入れ替わり立ち代りお水をあげたりとお世話をしながら楽しみに待っていたのでとても大喜びでした。花が咲き終わったら咲き終わった花を取り、みんなで色水遊びをしてジュース屋さんをしたり、色々な色を混ぜて楽しんだりと最後まで大切に朝顔の花を堪能させていただきました。やはり、お花は素敵ですね!

池田先生、ありがとうございます。



## 敬老の日のお楽しみ会

9月に入り、14日(土)には、子どもたちのおじいちゃんやおばあちゃんをご招待しました。

お楽しみ会では、おじいちゃんやおばあちゃんに歌のプレゼントをしたり、一緒に「いなりずし」を作ったり、ソーメンやお漬物と一緒にいただいたりしました。おじいちゃんやおばあちゃんが孫の手を優しく持って、いなりずしの作り方を教



えながら一緒に作る姿はとても微笑ましかったです。おじいちゃんおばあちゃんから「あまり遊びに来てもらえないから、嬉しい！」や「たまにしか会わないので、成長ぶりにビックリしたわ」など、たくさんさんの声が聞かれました。これからも、このような機会を作っていきたいという気持ちでいっぱいになりました。

まだまだ残暑も残ってはいませんが、子どもたちと一緒に「食欲の秋・運動の秋・読書の秋」を楽しみながら、元気に毎日を過ごしていきたいと思います。

### 栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

#### 2013年 賛助金

栄光園は皆様の60年を超える継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員への励みにも大きく力となっており、いつも嬉しく思います。継続してご支援頂くと意思表示をされておられる「賛助会員」の皆様、喜びを分かち合おうとされておられるボランティアや一般の寄付者の皆様の上に神様の豊かな祝福がありますようお祈りいたしております。  
〔2013年6月1日より2013年8月31日まで〕

#### 2013年 一般寄付

- 鈴木規夫エンジヨイゴルフ様 別府市
- 時枝喜久生様 別府市
- 匿名 別府市
- 匿名 別府市
- 長友トミ子様 別府市
- 野町眞理子様 高松市
- 波多野郁子様 別府市
- 萬松寺様 別府市
- 古川まゆみ様 別府市

#### 2013年 特別物品寄付

- 文具多量 合沢文化堂様
- 参考書等 安東秀典様
- タオル等 池田絢子様
- お菓子・飲料水等 ヴィーナスギャラリー別府店様
- 野菜多量 上田義賢様
- 電気製品・家具等 辛島陽子様
- アイスクリーム 九州アイスクリーム協会様
- 納豆 九州納豆組合様
- パン多数 ココラート様
- フライドチキン多数 匿名様
- 七五三用着物 徳久ミエ子様
- 洗剤・文具・衣類等 中村里子様
- 飲料水多量 濱田セツ子様
- お菓子多量 萬松寺様
- 粉ミルク多量 株明治様
- ぶどう多数 屋田和身様
- 衣類多数 リーディングエッジ株様

#### 2013年 改築寄付

別府不老町教会様 別府市

#### 2013年 招待・奉仕

チエロ演奏 白沢史子様・白沢あいら様  
小・中学生学習指導等 安東秀典様  
絵本読み聞かせ他 お話ボランティア様  
散髪奉仕 Kへアー様

#### 賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割可。  
ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。



#### 苦情等相談窓口

\*法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。  
tel.0977-23-2827  
fax.0977-23-7520  
mail eikoen@live.jp



花の園プロジェクトで咲いたあさがお

# グレースホームの集い

事務局長 江口 敏一



栄光園を支援されている方々にも欲しいとの思いで「支援者の集い」を進

めてまいりましたが、栄光園を巣立つていった卒業生のアフターケアも含めた会にしたいと考え、集会名を栄光園の名前を訳して「グレースホームの集い」と改名し、8月17日(土)今回第一回目の開催となりました。  
友永丈一理事長の挨拶の後、栄光園の各施設長及び職員から施設の様子、池田康雄理事から花の園プロジェクトのこと、毎週学習ボランティアとして支援されている安東秀典税理士から見た栄光園、そして、卒園生代表として職場で責任ある立場を任されている山本雄二さん、長谷川士郎元職員にお話をいただきました。  
お話のあと、子どもたち全員との楽し

## 「わたしは必ずあなたと共にいる。」

出エジプト記3章12節

青山保育所 小久保 次郎

モーセは神から、イスラエルの民をエジプトから脱出させる使命を与えられました。異国の地で厳しい労働を強いられ、いたイスラエルの民の叫び、うめきが神に届いたからでした。しかし、モーセは何故、自分がイスラエルの民を救い出す使命を神から与えられたのか、その理由がわかりませんでした。自分は弁が立つわけでもなく、口の重い人間であるとモーセは神に辞退したい理由を述べています。私たちも、それぞれ使命が、神から与えられておりますが、果たして本当に自分にできるだろうかという不安、恐れ、自己否定が起こりがちです。そのとき、神は「わたしは必ずあなたと共にいる。」という強い、励ましの言葉を与えてくだ

さるのです。それぞれの持つ力、能力、向き不向き、意欲、年齢いろいろと考えだすと、私たちは与えられた使命の前に立ち止まざるを得ないのが現実です。真剣に考えれば考えるほど、何故この私がと考えてしまうのが当然です。その結果、最初から無理だと判断しがちです。モーセにとつて、イスラエルの民をエジプトから脱出させるなど、到底できないことだと自己判断をして神に考え直して欲しいように懇願しています。しかし、神はモーセを選びました。神の、「私は必ずあなたと共にいる」という宣言は、私たちに使命への勇気を与え、神の意志を伝えます。臆する霊ではなく、前進する力を神は私たちに与えてくださいます。

## 花の園プロジェクト

### 華麗・珍種・可憐な あさがおの咲き比べ



今回の花の園プロジェクトは、7月末を中心に可憐な、そして、珍しい品種も含めたあさがおの咲き比べを市民の皆様披露したいとの思いを込めて、池田理事を中心に進めてきたものです。

7月は雨が少なく、酷暑の連続で絶え間ない水やりにも限度があり、生育が遅れ、皆様に開花をご披露する期間を8月上旬まで延長しました。正門を入ると乳児院の回り、グラウンド、そして本館、ウエストホールや心理棟の周囲にしつらえた支柱やネットにあさがおが、やさしく語りかけるように花開いておりました。中には、支柱を超えて桜の枝に花をつける元気者もありました。何よりも圧巻は、本館玄関ロビー周りの植込みに沿って咲いた長尺あんどんつくりの花たちでした。一人ひとり顔・形

い昼食会、引き続き、大分交響楽団チエロ奏者の白沢史子さんのピアノと姪の白沢あいらさんのチェロによる、クラシックから子ども曲までの演奏で心癒やされるひと時を与えられました。  
白沢様をはじめ、皆様がお客様でなく仲間としておいで頂いていることにも大変感謝しておりますし、感謝です。

栄光園を巣立った卒業生が栄光園をふるさととして戻ってこられる時期は、お盆の夏休みやお正月と考えられることから、8月中旬の土曜日を企画しました。毎年この時期で定着できればと考えておりますが、皆様のご意見をお聞かせください。

が違つてみんな良いって素敵な子どもたちの集まりを象徴しているようでした。  
あさがおは名前の通り朝開花するものですから、早朝の貴重な時間を割いておいでいただいた市民の皆様、お隣の借業園のお年寄りの皆様に心からお礼申し上げます。一粒100円を超える種もあり、次年度に備えての収穫も怠つておりません。  
これからの晩秋に向けて園内では、コスモスに続き、気高き皇帝ダリアが開花すると思えます。楽しみにしててください。



## 編集後記

この夏の暑さ、日照りと豪雨、自然界の異常は私たち社会の異常の反映でもあり、謙虚さの足りなさの反省を促しているようにも感じます。そのような中でも子どもたちは海に・山に心に残る楽しい思い出を刻みつけ、2学期を迎えております。また、7月末から8月上旬にかけて、花の園プロジェクトの朝顔鑑賞会を催し、近くの老人ホームのお年寄りも含め多くの方々になじみの朝顔、珍しい朝顔と咲き誇った姿を見ていただきました。8月には支援者の集いに卒園生も加えた、「グレースホームの集い」を開催し、卒園生、支援者、栄光園の役員を交えての話し合い、子どもたちと共に楽しい昼食、そして、大分交響楽団のチェロ奏者白沢史子先生と姪の方との楽しいコンサートの機会を持つことができました。  
(敏)